

Originalo: “Ponto inter popoloj kaj kulturoj” de MARKUS Gabor

La Revuo Orienta, novembro 2012

人々と文化の架け橋

マールクシュ・ガーボル

(ハンガリー)

私が名古屋の南山大学に留学した昭和58年からもう30年が経ちました。「緑星企業」(編注: エスペランチストの故早稲田裕氏創立) から奨学金をもらっていたことから、日本のエスペラント運動の社会生活にも定期的に参加しました。そのような訳で、私は、日本でエスペランチストになりました。毎週のように、北は北海道から南は四国まで、様々な市町村に行き、科学や文化における私の体験について講演をしました。

日本留学の後、ハンガリーに戻りましたが、南山大学での研究によりブダペスト経済科学大学で博士号を取得しました。当時は、日本に留学する人はほとんどいませんでした。ところが、その頃から、ハンガリーのみならず世界中の国々が日本に注目し始めました。どのようにして日本が経済発展し、コンピュータ産業が成功し、1968年に世界第2位の経済大国になることができたのかといった関心からです。

ヨーロッパやアジアの多くの新聞社や出版社から、私の体験を記事にするように依頼され、150以上の本や記事を書きました。それらは、多くの言語で出され、エスペラントでも出されました。エスペラントを使うことによって、私は、他の学者より詳しい情報を得ることができました。なぜなら、世界中のエスペランチストの専門家とそのテーマについて直接議論することができたからです。仕事にエスペラントを効果的に活用したことから、会社(ハンガリー国営石油会社と国会統制監査局)から100万円以上のボーナスをもらいました。

過去30年間に、これらのテーマに関してヨーロッパやアジアの各国で数多くの専門家会議が開催されました。その中でもとりわけ、中国社会科学アカデミーとポーランド科学アカデミーの招待で、私は、「日本流経済政策を導入してどのように我が国の経済を発展させるか」というテーマの講演をエスペラントで行いました。

当時、ハンガリー政府は、東ヨーロッパ共産圏で初めて新政策を導入し、国内に民営会社の設立を認めました。私は、スカンジナビアの起業家に対し、ハンガリーに投資を促すためにスウェーデンに行き、新しい政策について多くの大学や市役所や図書館などでエスペラントで講演しました。これがうまく行き、スウェーデン中部のある会社の社長から私に対し、スウェーデン・ハンガリー合同会社の設立に協力するよう依頼され、しかも、その新企業の社長になるように提案されたのです。

私は、ロシア語、英語、フランス語、日本語、ドイツ語も勉強しましたが、以上の経験から、エスペラントが私の人生をもっとも豊かにし、エスペラントによって、世界の様々な国々や大陸の人々と文化の間に架け橋を作ることができたと考えています。

(訳: 桐生康生)